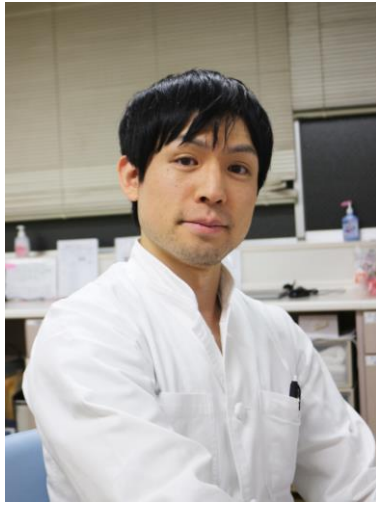


荻窪病院だより

腰痛・膝痛の原因が「股関節」にあった!? 下半身の関節の不具合が連鎖する「隣接関節障害」と 最近の人工股関節置換術についてお話しします

下半身の痛みを訴えられる患者さんの中には、複数の痛みに悩まれる方が多くいますが、ひとつの部位の治療が遅れることによって、隣り合う関節に痛みや変形が連鎖してしまう「隣接関節障害」を知ると、病状への理解や、治療に対する意欲が高まるのではないのでしょうか。

今回は当院整形外科で股関節の治療を行っている福田良嗣医師に、下半身の痛みと「隣接関節障害」について、また最近の股関節の手術について話を聞きました。



福田良嗣 整形外科医師
ふくだ よしつぐ

私は股関節が専門ですが、当院には腰・膝・足それぞれに専門医があり、治療をカバーしあえるのが最大の強みであると考えます」と福田医師。

Q 下半身運動器の痛みや変形が連鎖するという、その一例を教えてください

人間は歩行時、手を左右に振り、体幹にひねりを入れ、左右の足に交互に体重を乗せかえています。このひねりは下半身に大きな影響を与えており、それぞれの運動器がスムーズに連携して機能することがとても大切なのですが、股関節が硬い場合、ひねりをうまく逃すことができずに、その負荷が膝にかかっていきます。

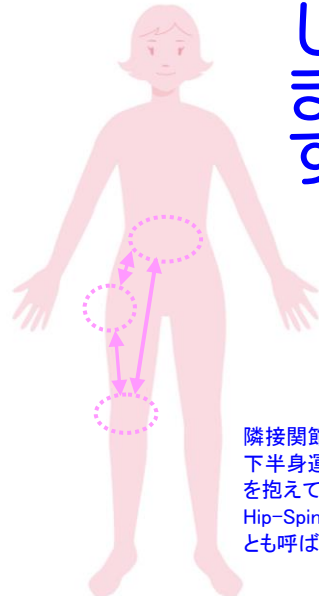
膝関節はほとんど一方にしか動かない関節ですので、このひねりの負荷が過度になると靭帯の損傷、膝軟骨のすり減りといった関節の変形につながっていきます。

こうしたひとつの運動器の不具合が隣り合う関節に影響していく病態を「隣接関節障害」といい、腰・股関節・膝の間ではよく生じます。また外反母趾の患者さんにも膝が悪い人が多いように、足・足関節も関連していると考えられています。

Q 実際にはどのように痛みの診療を進めようか?

複数の下半身の痛みを訴えられている方には、腰・股関節・膝を動かしてもらったり、触ったりして疼痛部位をしぼっていきます。

股関節に異常を認め、中でも股関節痛が強い方は、股関節の治療を先行したほうが患者さんにとって「治療対効果」が高いことが多いため、まず股関節の治療を中心に進めていきます。すると腰痛・膝痛の軽減がみられることがあります。また腰痛や膝痛が残存しても、注射療法などを併用するだけで、手術に至らずにすむケースも多々あります。早めの治療が運動器間の連携を向上させるわけですね。



隣接関節障害は、下半身運動器の複数の問題を抱えている状態。Hip-Spine-Knee syndrome とも呼ばれます。

←裏へ

荻窪病院は
地域医療に
貢献します

理念

患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

基本方針

1. 急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
2. 個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
3. 豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
4. 経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。



Q 股関節の具体的な治療について、教えてください

まず痛み止めや湿布、温熱療法や運動療法、股関節および股関節周囲の軟部組織に対する注射などの「保存療法」を行います。特に自分の股関節を長持ちさせられるよう、股関節周りの筋力と柔軟性を高めることはとても大切なことです。

こうした治療を行っても、痛みが強い、長く歩けないような方の場合は「人工股関節置換術」という手術を行うのも、ひとつの選択肢となります。

こちらはその名の通り、変形してしまった股関節を人工股関節にする手術ですが、股関節痛に対する除痛効果は大変高く、リハビリとの併用で硬くなってしまった股関節の動きをスムーズにすることも可能になります。

昔は大手術のひとつでしたが、今は技術が飛躍的に進歩し、傷も3分の1程になり、出血量も少なく、侵襲性は低くなってきました。筋肉や、股関節をくるんでい



股関節は球体であり、受け側の寛骨臼でスムーズに動くことが大事です。股関節まわりの筋力や柔軟性が低下すると、股関節のかみ合わせが悪くなって、痛みが出やすくなります。

抑えることができるようになったため、人工股関節手術の最大の弱点であった「脱臼」がほぼみられなくなつたのも大きな進歩です。そのため手術の翌日から、起立訓練・歩行訓練といった早期リハビリテーションを行えるようになりました。

また以前は10～15年だった人工股関節の寿命が30～40年と格段に伸びているのも、大きな進展のひとつです。そのため60歳以上だった手術年齢層が、45歳以上くらいまで引き下がってきています。

このように手術は進歩しましたが、患者さんにとっては不安も多いかと思います。受診したらすぐ手術になるというわけではなく、ぜひ一度、ご相談いただければと思います。

Ogikubo Hospital Topics

新副院長に
布袋祐子医師が就任

20年3月1日付けで、布袋祐子診療部長・皮膚科部長が副院長に就任いたしました。これにより当院は副院長3名体制で、より一層地域医療・救急医療に貢献してまいります。



布袋 祐子 ふていゆうこ
副院長・診療部長・
皮膚科部長・TQM推進部長

20年4月より
初診時・再診時選定療養費が
義務化になります

医療機関からの診療情報提供書（紹介状）がなく受診される場合は、自ら当院を選ばれたものとして初診時選定療養費(5500円・税込)の徴収が厚生労働省により「義務化」となりました。また当院が他の医療機関に患者さんを紹介したにもかかわらず、当院で引き続き受診される場合は再診時選定療養費(2750円・税込)の徴収も義務として定められましたので、お知らせ申し上げます。

常勤医師
入退職のお知らせ

お世話になりました

退職 (3/31付)

- | | |
|---------|-------|
| 消化器内科 | 水野達人 |
| 消化器内科 | 田淵貴也 |
| 循環器内科 | 遠田賢治 |
| 外科 | 小林恭子 |
| 整形外科 | 大門憲史 |
| 整形外科 | 坂本徹夫 |
| 整形外科 | 丹下仁志 |
| 産婦人科 | 宮崎 薫 |
| 小児科 | 縣 一志 |
| 麻酔科 | 森山久美 |
| 麻酔科 | 田嶋佳代子 |
| 初期臨床研修医 | 小川祐貴 |
| 初期臨床研修医 | 田崎 諒 |
| 初期臨床研修医 | 山崎 舜 |
| 初期臨床研修医 | 牧原京平 |
| 初期臨床研修医 | 八木直人 |

入職 (4/1付)

- | | |
|---------|-------|
| 消化器内科 | 王 婉 |
| 消化器内科 | 牧田遊子 |
| 内科 | 水島一郎 |
| 内科 | 東條誠也 |
| 外科 | 矢島慶太郎 |
| 整形外科 | 谷本祐之 |
| 整形外科 | 中村 匠 |
| 整形外科 | 村上のぞみ |
| 産婦人科 | 片岡典子 |
| 産婦人科 | 宮崎康太郎 |
| 小児科 | 土方妙江 |
| 麻酔科 | 加納美咲 |
| 初期臨床研修医 | 田仲 樹 |
| 初期臨床研修医 | 中島 真 |
| 初期臨床研修医 | 平形志生 |
| 初期臨床研修医 | 保田竜太郎 |
| 初期臨床研修医 | 岡田このみ |

